

事業の概要

担当課：道路整備課

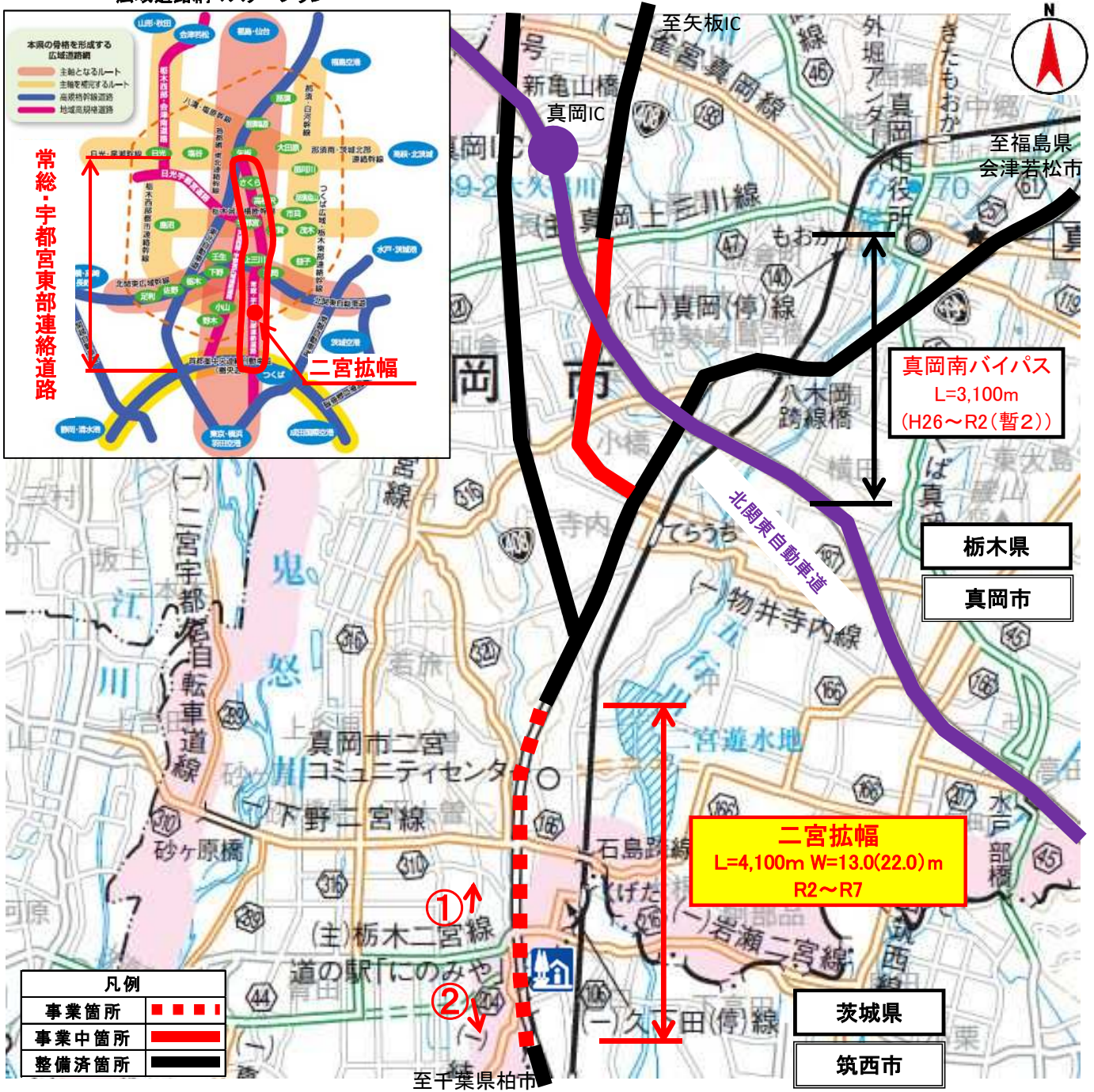
事業名	快適で安全な道づくり事業		事業主体	栃木県	
事業箇所	一般国道294号 <small>にのみやかくらく</small> 二宮拡幅 真岡市 <small>くげた</small> 久下田～寺内 <small>てらうち</small>				
事業の目的、事業発案の経緯・背景	<p>一般国道294号は、千葉県柏市を起点とし、本県の東部地域を縦貫して福島県会津若松市に至る主要な幹線道路である。特に本事業区間は、現在事業中の真岡南バイパスなどと一体となって地域高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」を形成し、県域を越えた連携・交流を促進する重要な路線となっている。</p> <p>しかしながら、本事業区間の車線数は、前後区間が4車線で整備されているにもかかわらず未だ2車線であることから朝夕を中心に交通渋滞が発生しているとともに、令和2年度には真岡南バイパスが供用開始する予定であることから更なる交通需要の増加が見込まれている。</p> <p>このため、本事業により、当該区間の4車線化（交通容量の拡大）を図ることで、地域高規格道路としての十分な走行サービスを提供し、地域間の連携・交流の強化の促進や周辺の工業団地の産業活動の支援等を図るものである。</p>				
事業内容	<p>・ルート等は、都市計画道路3・3・2号真岡二宮線と整合した計画とする。</p>				
	<p>・総延長：4,100m ・計画交通量：31,000台/日（令和12年度） ・道路区分：第4種第1級 ・車線数：4車線 ・標準幅員：22.0m （車道13.0m、中央帯1.0m、歩道2.5m×2、自転車通行帯1.5m×2）</p>				
事業予定期間	令和2年度～令和7年度	事業見込額及び内訳	総事業費	約20億円	
	用地調査：令和2年度～ 用地取得：令和2年度～令和3年度 工事実施：令和3年度～令和7年度		事業費内訳	測量設計費：約1億円 用地補償費：約1億円 工事費：約18億円	
			財源内訳	国費：55% 県費：45%	
事業概要図	別紙記載				
県計画への位置付け	<ul style="list-style-type: none"> 「とちぎ元気発信プラン」：コリドールネットワーク（スカイコリドール）に位置づけられている。 「県土づくりプラン2016」：拠点間の連携・交流を支える幹線道路網の強化として位置づけられている。 「とちぎみちづくり構想」：首都圏・東北連絡幹線に位置づけられている。 「とちぎ道づくりプログラム」：全国・海外と連携する交通ネットワークの充実・強化【前期5年着手】として位置づけられている。 「栃木県地域防災計画」：第1次緊急輸送道路に指定されている。 「宇都宮都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」：広域的な移動や連携の促進を図る広域連携軸として位置づけられている。 				
他計画・他事業との関連	<ul style="list-style-type: none"> 真岡市都市計画マスタープラン：広域幹線道路として位置づけられている。 				

事業の評価

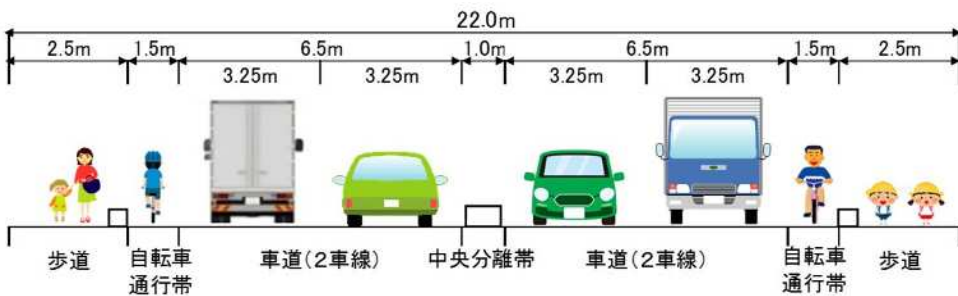
評 価 の 視 点	1. 事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域高規格道路としての道路機能の向上（4車線化）を図る必要があること。 ・第1次緊急輸送道路としての防災機能の向上（4車線化）を図る必要があること。 ・沿道の産業団地を支援するため、物流の強化を図る必要があること。
	2. 事業の適時性 （今事業に着手する理由等）	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度末には隣接する真岡南バイパスが暫定2車線で開通を予定していることから、更なる交通需要に対応するため、本工区について事業に着手し、投資効果を高める必要がある。
	3. 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート等は、都市計画道路3・3・2号真岡二宮線と整合した計画である。
	4. 事業手法の適切性 （県が事業主体となる理由等）	<ul style="list-style-type: none"> ・一般国道294号の現道を拡幅するものであり、道路管理者として、県が事業を実施する。
	5. 事業により予想される効果及び影響 （機能的な効果 ・経済的な効果 ・他計画、他事業への波及効果 ・環境への影響など）	<ul style="list-style-type: none"> ○投資効果 <ul style="list-style-type: none"> ・費用便益比（B/C） 6.3 ・総便益（B） 119.8億円 ※供用後50年間の効果を金銭に換算したものの走行時間短縮(103.8)、走行経費減少(15.4)、交通事故減少(0.5) ・総費用（C） 19億円 ※建設費と供用後50年間の維持管理費を含む ○地域高規格道路として十分な走行サービスを提供することで、広域的な連携・交流の促進と産業・経済への支援強化が図られる。 ○交通渋滞の緩和により、県東部地域の円滑な交通が確保される。 ○災害時の救援活動や物資輸送に資する緊急輸送道路としての機能が強化される。
	6. 事業コスト縮減等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・植樹柵の撤去により、維持管理コスト縮減を図る。 ・側溝を無蓋化することにより蓋版補修等の維持管理コスト縮減を図る。 ・再生材の利用や、建設発生土の公共工事間流用に努め、コスト縮減を図る。
事業の対応方針(案)	本事業については、令和2年度より着手する。	

事業概要図

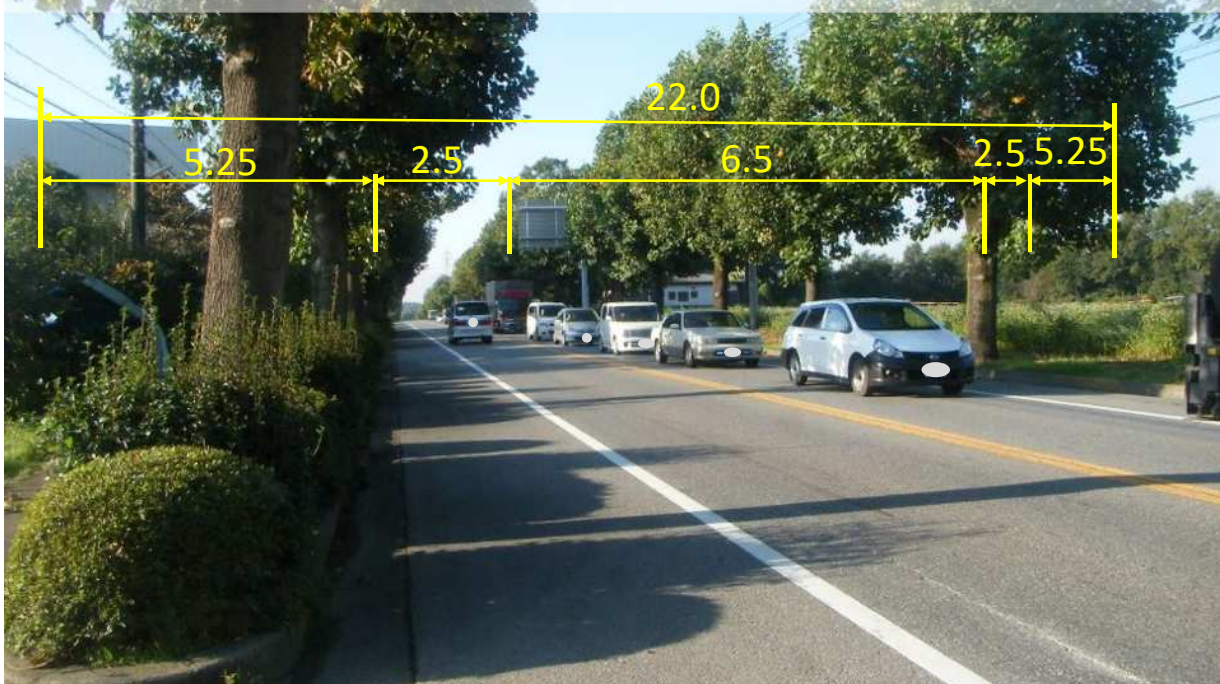
広域道路網マスタープラン



【標準横断面図】



①整備の中抜け区間（暫定2車線）



②朝夕を中心に渋滞

